



SUPER GT、フォーミュラ・ニッポン、Formura3に参戦し、
輝かしい戦績と信頼を誇るトムス。

伝説の男たちが、 ATOSを手に 新たな伝説に挑む。



株式会社トムス
代表取締役社長
大岩 滉 氏

Formura 3 2007年 マカオグランプリ優勝マシン ドライバー：オリバー・ジャービス



<http://www.toms-design.jp/>

SUPER GT ● PETRONAS TOM'S SC430



「モデルで形を正確につかみたい」。
「3Dデータにしたい」。その2つの思いを、
非接触3次元デジタイザATOSが実現。

株式会社トムス デジタルデザイン事業部 大國 正浩 氏

伝説の男たちが、動いた。

日本のレース業界に君臨するレーシングチーム「トムス」。トヨタのワークスチームとしてF3、SUPER GTを制覇、ル・マンでも2位を獲得。輝かしい戦績は日本のレース業界でも群を抜いている。トムスは1974年に設立したのが、元ドライバーの館信秀会長とトヨタディーラーにいた大岩滉社長である。

トムスはレースチーム運営だけでなく、独自にF3マシンも開発・販売した経験を持ち、市販車の性能・機能を向上させるターボキット、スーパーチャージャーやエアロパーツなどの開発と販売にも挑んできた。そして2007年7月、トムスの歴史に新たなページを加えるべく、男たちが動いた。「デジタルデザイン事業部」の立ち上げである。得意なレーシングカーのデザインはもちろん、一般商品のデザイン開発を目指した事業部だ。事業部責任者の大國正浩氏は言う。「デジタルデザイン事業部は『デザイン』『試作』『測定』の3部門に分かれますが、測定部門でどうしても使いたいものがありました。ATOSです」

なぜATOSだったのか。「例えばレーシングカーを改造する場合、車の3Dの元データがあれば比較的容易につくれます。しかし、元データはメーカーの機密事項なのでそう出てくるものではない。となると手で測定するしかなくあまりに

無駄が多かった。形をすばやく、それも大型のものを測定できるものとして、ATOSに注目していたのです」

今、ATOSは新たな使い方をされつつある。「3D CADでデザインをしても、画面で正確な形をつかむのが難しい。結局、モデルをつくってしまったほうが形を把握しやすい。その後、モデルをATOSで測定すれば3Dデータにできる。つまり、ATOSによって『形を把握すること』と『3Dデータ化』という、相矛盾することが可能になったわけです」

大岩社長は力強く言う。「いずれはフェラーリのように夢のある車をつくってみたい」——。あまたのレースで名を馳せてきた男たち。今、もう1つの夢を抱き、新たな伝説に向かって歩み出した。



ATOS ATOS I / ATOS II / ATOS III 3Dimensional Optical Digitizer

非接触型光学式3次元デジタイザ「ATOS (エイトス)」は、本体に取付けられた2個のCCDカメラと1個のプロジェクターにより、測定対象物の素材や大きさにとらわれることなく、有形物の形状を取り込むシステムです。小型の匡体は測定場所を選ばず、写真を撮る感覚で素早く、正確に座標化し、形状データを作成します。検査、デザイン、研究開発、品質管理、解析などの多分野で、微細部品から携帯電話、家電、自動車、航空機、タービンなどの数多くの実績があります。その高汎用性、高精度、高速測定(1スキャン最速0.8秒)の特長が高い評価を得て、多くのユーザーから支持されています。



ATOSIについて

詳しい情報は ▶ <http://www.marubeni-sys.com/de/gom/>
お問い合わせは ▶ gom_info@marubeni-sys.com

記載の製品名等は、各社の商標またはそれに準ずる登録を受けています。